

大崎市立岩出山小学校「防災・安全教育シンポジウム」に参加しました(2017/1/19)

テーマ：学校安全、防災教育、学校と地域の連携
場所：大崎市岩出山文化会館（スコーレ・ハウス）

1月19日（木）大崎市岩出山文化会館にて、市立岩出山小学校が主催する「防災・安全教育シンポジウム」が開催され、当研究所 情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野の佐藤健教授が基調講演を行い、桜井愛子准教授がパネル討議のコーディネーターとして参加しました。同シンポジウムには、岩出山地区の住民、県内学校の防災主任等、約200名が参加しました。

岩出山小学校は、平成26、27年度の宮城県教育委員会の「みやぎ防災教育推進協力校事業」指定校として、加えて平成27年度は文部科学省の「防災教育を中心とした実践的安全教育総合事業」の委託を受け、防災教育とともに安全教育の推進を図ってきました。佐藤健教授は、同校の「学校・地域防災（安全）委員会」のアドバイザーとして、2年間を通じて同校の取組みを支援してきました。

シンポジウムでは、佐藤教授の基調講演「地域を学び、地域を愛する子どもを育てる防災・安全教育」に先立ち、宮城県教育委員会が学校防災の拡充に向け全国に先駆けて設置した安全担当主幹のひとりである、同校の早坂潤主幹教諭が「岩出山小学校の実践発表」を行いました。続く佐藤教授の講演では、「持続可能な防災教育の実現には、地域の子ども、大人が地域ぐるみで郷土を学ぶこと（地元学）が重要である」との点が強調されました。パネル討議では、「地域と学校が連携した持続可能な防災・安全教育」をテーマに、石巻市立鮎川小学校から東日本大震災後の同校における防災・安全教育についての事例紹介が行われ、県内内陸部（岩出山小）と沿岸部（鮎川小）の先進事例間での情報共有が図られました。パネル討議では、岩出山小学校の不審者対応や避難訓練、防犯協会による集団下校指導、岩出山の災害、地域住民として望むことなどが、岩出山地区の学校・地域防災（安全）委員会のメンバーから紹介されました。

岩出山地区では、平成30年度に地区内の5つの小学校がひとつに統合されます。統合に向けた準備が進められる中、推進事業等が終了した後も学校と地域の連携による地域に根ざした防災活動が進められることが期待されます。



佐藤教授講演の様子



パネル討議の様子

文責：桜井愛子、佐藤健（情報管理・社会連携部門）